

であり、この手段が自由に使えれば表現しやすくなる。しかし描く時には、子どもは興味のあるものだけをかくので、動きのある遊びを与えて刺激してやるのがより大切で、このような点や線の遊びをさまざまに発展させ、いろいろな経験を積ませていくことが創造力を一層健全なものに発達させていくものであると思う。

・なぐりがきの子どもには、なるべくかくことについての意味づけに導くよう試みたのであるが、Y児のように、なぐりがきから象徴期に移行しつつあるとき線遊びをすることは、より効果的な結果が得られたようである。

・概念的な絵をかく子どもについてみると点や線遊びなどにより、いろいろな表現の仕方があるということを得得することができたのではないかと思われた。そして、少しずつ自分の型を動きのある表現にすることができ、概念的な子どもとの治療法の一つになることがわかった。

結 び

このように指導を試みてみたが、幼児はまだやっと喜んで絵をかくようになりかけたところである。

ある日、遊び室で乗物ごっこをしたが、少しせまくてぶっつかって、こぶを出してしまった。その直後、こぶを出した子どものかいている絵をみると、大きな柱のわく

少 さ い 経 験



朝、空いっぱい流れてくる音楽に二人、三人の子どもが熱心に耳をかたむけ、リズムに合わせて、首を振ったり、手を叩いたりしていた。

次の朝また同じ曲をかけてやると、楽しんで耳をかたむけていたのが、それであ

が両方にえがかれ、中央のせまい所に二人の子どもが頭をくっつけているのであった。この子は遊びを通して、室のせまさを感じたのであろう。このような子どもの訴えや願いも受けとめて、幼児のひとりひとりの成長を見守りながら、より豊かに育てていくよう、今後も一層この道にはげんできたいと思う。
(能本幼稚園)

鈴 木 輝 子

.....私の組の研究.....

き足らなくなったのか踊り始めた。

このような様子を見ていると、子どもたちにとって本当に、音楽に対し順応しやすいのだなあと、しみじみ感じさせられるのである。

時どき遊びや仕事に熱中しながら、子どもたちが、自分勝手に作った歌を口ずさむ

のを見受けることがあるが、うれしい事がある、特にこのような状態が多いようである。その中に、可愛らしく、おもしろいのある曲があったりすると、この曲をメモをしておこうと思いつつ、忙しさに忘れてしまったり、おっくうに感じたりして、せっかくのチャンスのをがしてしまうことがたびたびある。

子どもひとりひとりのものでなくとも、子どもの協同によって、一つのものを作り上げてみようと思った。

学生時代に作った曲を、子どもたちに聞かせたり、お話、特に絵本の中に出てくる詩があると、「まあ、この詩を読んでいると、楽しくなるわね」とか、「この詩を読んでいると、どこからか歌が聞えてくるようだわ」と暗示して、子どもの側から、曲を作りたいという意欲を持たせようと思った。そんなことから二月のある日、キングブックの中の詩、

えんそく、えんそく、朝の道

みんなが、うたつて、あるく道

を読んでやっていると、「せんせい、歌作

るからあ」と、ひとりひとりが言い出し、他の子どもたちも、熱心にせがむもので、

「おお、そんなら作ってみましょうか」と子どもたちと共にすることにした。

もう一度詩を聞かせた後、どういふ感じがしたか聞いてみた。それに対し、「おもしろい」「たのしくなる」「えんそくにゆきたくなつた」と……。

「おお、本当に、楽しくなるわね。みんなで飛行場へ、遠足に行った時のこと思い出すわね。遠足、えんそく、朝の道つてあるけど……」たのしかった遠足の時の事を、ひとりひとりの心の中に、思いおこさせたりして、互いに語り合っている。

「それでは、えんそく、えんそく、まで歌えるかなあ」子どもたちを見渡すと、I子が、小さな声で、えんそく、えんそく、と歌いだしたので、もう少し続けてくれたらと思つているうちに、子どもたちの視線が、その子に集まつたので、恥かしそうに

止めてしまった。

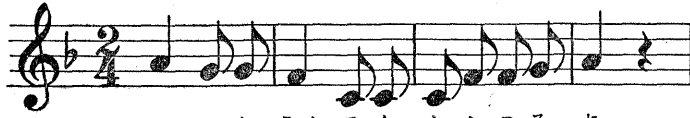
五線紙に書き込む前に、オルガンで音を確かめた後、「I子ちゃんは、こんなふうにごうたのよ」と、I子に代つて私が歌つてやると、S子が、それに続けて歌いだした。嬉しくなつた私は、「まあ、とても可愛らしいのが、出来そうね」と、I子、S子の曲を、もう一度歌つてみた。

「これまで出来たけど、この続きをどうしましょう」と言うのと、子どもたちは熱心に、口の中で、ブツブツ言いながら、考えはじめた。しかし、そんなことつまらない、といった表情で、絵本を見ている子どもが、二、三人いたけれど……。

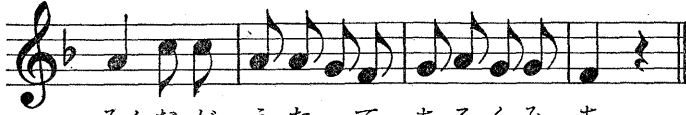
しばらくすると、B男が、負けじとばかり大声で、「みんなが、歌つて」と歌い出した。突然大声を出したので、他の子どもたちが笑つてしまい、終りの一行の歩く道はなかなか出てこないうちに次の予定（礼拝）の時間になつてしまった。

それからこのような雰囲気、なかなか出来ずにいたが、二、三日たつてからのこ

と、昼食後、静かにする為に、いつも讚美歌や守歌を歌ってやる習慣になつていたので、この時に、未完成のままになつていた歌を、二度ほど歌つてみたところ、ヒョ



えんそく えんそく あさのみち



みんなが うたって あるくみち

ッと最後のメロディーが子どもの方からとび出たので、やっとのことで、完成することができた。

初めから歌つてやると、前には無関心だった子どもも大喜びであった。

子どもたちは、どの歌よりも、気に入らなく、部屋に入ると、誰からともなく歌い、お誕生会には他のクラスの子どもたちの方で歌い、好評を拍した。

これが、もし、経験のあつたすぐ後だったならば、もつとらしく、そしてもつと良いものを作ることが出来たにちがいない。

保育効果をあげるために

テレビをどのように利用するか

八 坂 富 子

..... 私の園の研究

昨年度から「放送教育」にとりくんで今年は第二年度を迎えた。本年は問題を「テ

レビ」にしぼって一年間実践をした、ささやかな研究の一端をここに報告する。

この子どもたちには、もう一度の機会を与えることが出来ずに、卒業を迎えてしまつたが、でも、保育の経験に浅い私には大きい励みであった。

この次、受け持つ子どもたちには、この経験を生かして、もつと早い時期に、もつとたくさん、機会を与えてやりたいと思つている。

そして、子どもの持つ豊かな創造性を、音楽の面でも、のばしてやりたいと願つている。
(仙台・長町幼稚園)